

計画段階評価（試行）
【日本海沿岸東北自動車道（二ツ井白神～あきた北空港）】

- 1) 第 1 回東北地方小委員会での主な意見と対応方針(案) 資料 2-1

- 2) 地域等からの意見聴取の方法(案) 資料 2-2

- 3) チラシ・アンケート(案) 資料 2-3

- 4) 今後の想定スケジュール 資料 2-4

- 5) 【参考】第 1 回東北地方小委員会を踏まえた資料の修正 資料 2-5
 - ・ 2-④ 走行速度の状況
 - ・ 1-⑤ 高次医療の状況
 - ・ 5. 整備方針の検討（対策案の効果例（医療））
 - ・ 1-⑧ 農業の状況
 - ・ 5. 整備方針の検討（対策案の効果例（農業））

第 1 回東北地方小委員会での主な意見と対応方針(案)

■将来の地域の姿、それを見据えて計画すべき

→チラシ・アンケート（資料 2 - 3）において、当該地域の将来の姿（目指すべき姿）を県及び市の総合計画等から抜粋列挙し、その実現に向けた課題、政策目標の設定の流れとした。

■時間軸を定めて目標と効果を見る必要がある

→チラシ・アンケート（資料 2 - 3）において、暫定整備段階と完成整備段階で、費用や通過時間、政策目標に対する指標がどう変わるかを示した。

■冬期の状況(速度)、維持管理・災害対応やその際の通行止めリスク(信頼性)等を比較に加えるべき

→チラシ・アンケート（資料 2 - 3）において、現況の冬期速度低下区間を示したとともに、冬期における短縮時間や災害時の迂回路設定状況等を、各案の特徴や政策目標に対する指標に加えた。

■設定した課題(政策目標)が同じウエイトで良いのか。地域が最も望んでいるものは何か。産業界ではどうなのか

→チラシ・アンケート（資料 2 - 3）において、政策目標のウエイト付けについて設問した。

→また、企業等へのヒアリング等を行い、アンケート結果とともにとりまとめることとし、計画段階評価の判断に資することとする。（資料 2 - 2）

■秋田県の一般的特徴である「農業」面での必要性を述べるべき

→チラシ・アンケート（資料 2 - 3）に、農業面での課題と政策目標を加えた。

→また、政策目標のウエイト付けについて農業も含めて設問した。

→さらに、JAにもヒアリングを実施する。（資料 2 - 2）

■アンケートにより多くの人々が参加出来るよう工夫すべき

また、子供など若い人の意見も取り入れられるようにしてもらいたい。

（資料 2 - 2）

→2市での説明会の他に、県や秋田県北地域の市町村等と協力して広報への挟み込みを実施し、より多くの参加が得られるようにする。

→秋田県北地域の高校を対象に、アンケート調査の周知・依頼を行う。

→その他、能代河川国道事務所HPでのアンケート調査を実施。

（整備局、秋田県、県北9市町村のHPにバナー設置）

地域等からの意見聴取の方法(案)

資料2-2

対象	一般の方々			企業等		
	当該区間の地域住民の方々 (能代市、北秋田市)	県北地域住民の方々 (県北地域の能代市、北秋田市以外の7市町村)	幅広い世間一般の方々	県北地域のリサイクル関連企業、病院、旅行会社、物流会社、農業関係者等		
実施主体	国土交通量・秋田県・能代市・北秋田市					
意見聴取方法	チラシ・アンケート	説明会	○ (能代市、北秋田市で各1会場)	—	直接ヒアリング (15~20社程度を抽出予定)	
		市町村広報誌 (挟み込み)	○ (能代市1月25日、北秋田市2月1日)	○ (1月25日~2月10日)		—
		オープンハウス	○ (能代市役所と北秋田市役所庁舎内)	—		—
		役場、道の駅等 (投函ボックス設置場所)	○	○		○ (道の駅に立ち寄った方々等)
		ホームページ (能代河川国道事務所HP)	○ (市町村HPのバナーから能代河川国道事務所HPへリンク)	○ (市町村HPのバナーから能代河川国道事務所HPへリンク)		○ (整備局HPのバナーから能代河川国道事務所HPへリンク)
		県北地域の高校に配布	○	○		—
回収方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスト、投函ボックスへ投函 ・Web上で投函 ・直接回収(学校) 			—		
期間	1ヶ月程度(1月下旬~2月下旬)			~2月下旬		

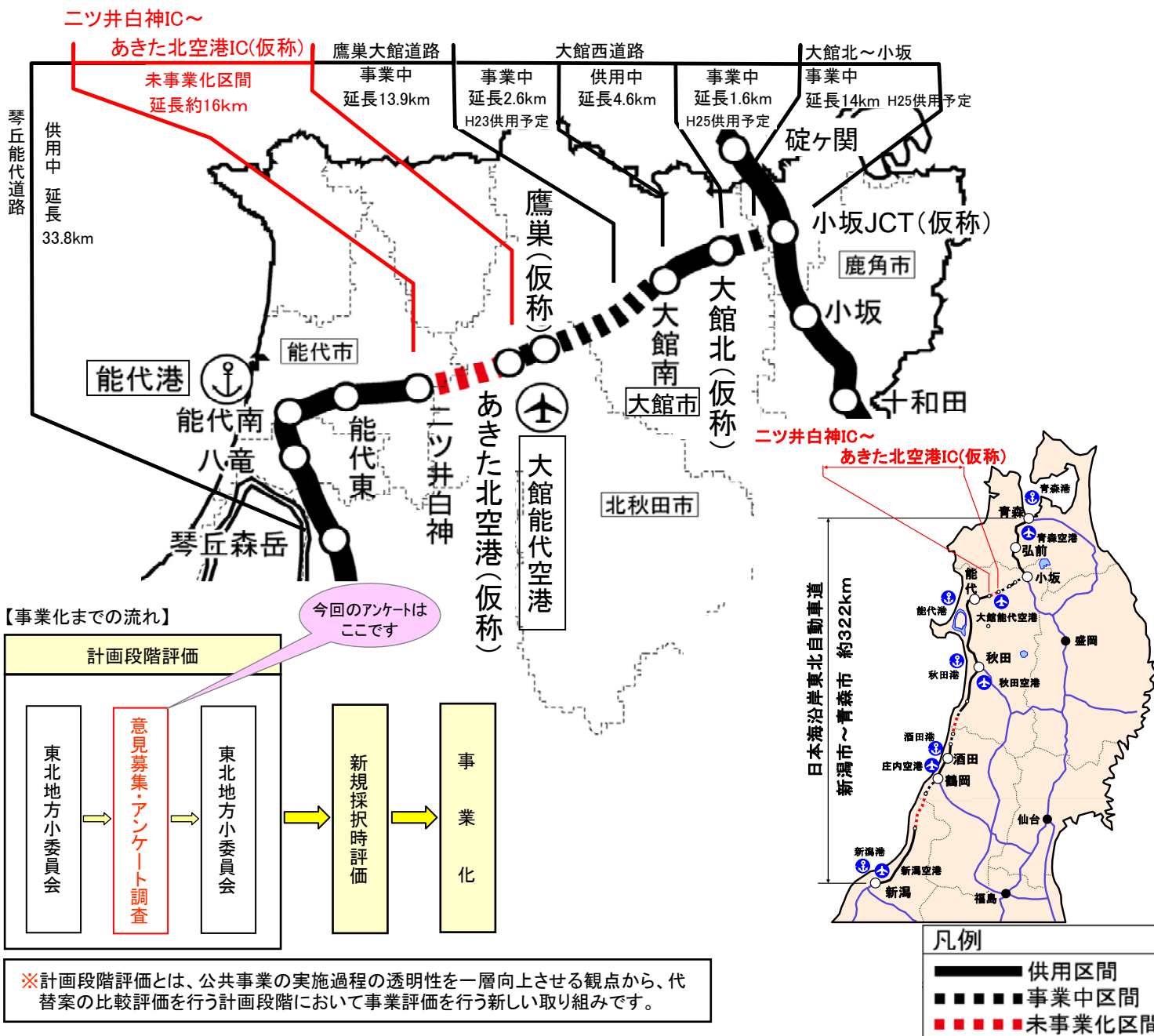
ふたつ いしらかみ きたくうこう
**二ツ井白神IC～あきた北空港IC(仮称)間の
 計画検討に関する意見募集**

日本海沿岸東北自動車道は、新潟市から山形県・秋田県を通過して青森市に至る延長約320kmの高速道路です。

今般、未事業化区間である**二ツ井白神IC～あきた北空港IC(仮称)**間の計画検討にあたり、みなさまのご意見をお聞きしたくアンケートにご協力をお願いします。

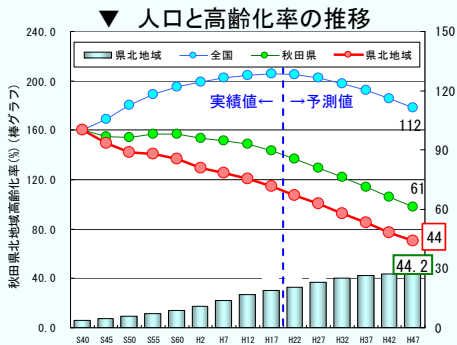
今回のアンケートは国土交通省の**※計画段階評価**の試行の一環として行われます。

※みなさまのご意見は計画段階評価での地域からの意見として「社会資本整備審議会 道路分科会 東北地方小委員会」に報告いたします。



地域が目指す将来像実現への課題を踏まえ 4つの政策目標を設定しました

【 自治体では人口減少・高齢化を踏まえた未来の姿をイメージしています 】



秋田県北地域の将来像(目指す未来の姿)

(能代市、北秋田市、大館市の総合計画より抜粋)

概ね5年
後に目標とする姿

- ・救急医療体制の整備充実を図り、効率的で利用しやすい医療体制を整える。
- ・能代港をリサイクルポートとして秋田道と連携し、リサイクル産業を振興。
- ・グリーンツーリズム等観光との連携。特産品の販路拡大。
- ・能代山本地域、五能線沿線地域、大館能代空港の広域連携。

※能代市はH29、北秋田市、大館市はH27が総合計画の目標年

秋田県が目指す姿

(秋田県の県政運営指針「ふるさと秋田元気創造プラン」より抜粋)

概ね10年
後の姿

- ・質の高い地域医療の提供体制が確保。
- ・環境・リサイクルなど秋田の強みを活かした産業の成長。
- ・農業と他産業が一体となった「食・農・観」連携ビジネスが展開。
- ・観光地などの秋田ブランドイメージが、全国に浸透している。

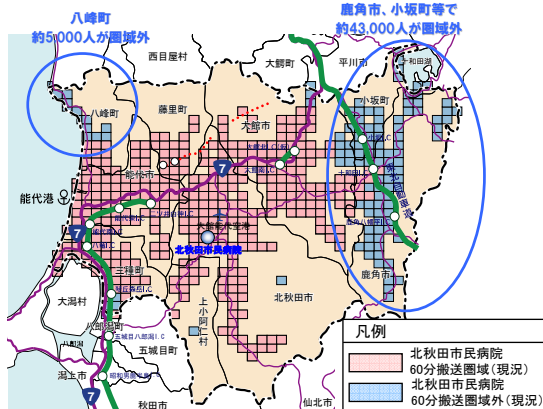
※秋田県総合計画はH31が目標年

資料：S40～H17は各年国勢調査、H22～H47は国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計(H20.12)

【 将来像実現へ向けた現在の主な課題です 】

1. 救急医療サービスの一時間圏外が存在

三次医療機能を目指す北秋田市民病院が開院するも、60分で到達できない地区が存在。60分搬送圏人口比率は約82%にとどまる(全国平均97%、秋田県平均92%)

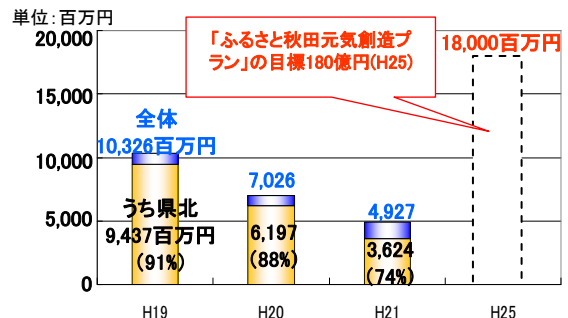


▲ 北秋田市民病院60分搬送圏域

資料：能代河川国道事務所算出

2. 地域の基盤産業であるリサイクル産業の売上額が減少

将来的に地域の産業基盤となることが期待される県北地区のリサイクル産業だが、平成19年度以降、売上額が減少し、伸び悩みの状態(県北地域には約20種類の元素を回収できる高度なリサイクル技術を有する世界でも数少ない精錬施設や国内最大級の廃棄物の最終処理施設が存在する。)



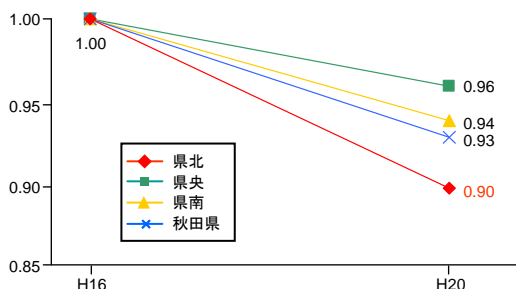
▲ 秋田県環境リサイクル産業関連売上額推移

資料：H19～21売上額は秋田県ヒアリング

H25売上目標額は「ふるさと秋田元気創造プラン」

3. 市場規模が小さく、指定野菜の収穫量が伸び悩みの状況

秋田県北地域には、野菜指定産地に3市(夏秋きゅうり：鹿角、夏秋トマト：鹿角、秋冬ねぎ：能代、大館)が指定されているが、収穫量が減少している



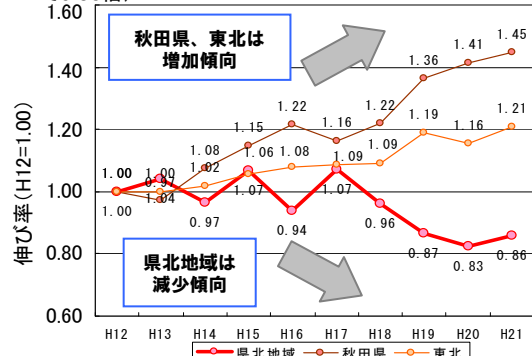
▲ 指定野菜の収穫量の伸び率

資料：農林水産省「作物統計」

※秋田県の野菜指定産地は以下の4種類が指定されている
夏秋きゅうり、夏秋トマト、秋冬ねぎ、ほうれんそう

4. 魅力的な観光地を有するものの観光入込み客数は減少

県北地域には世界遺産白神山地等の魅力的な観光地・景観を有する一方で、この10年間の観光入込み客数は減少傾向(対H12で0.86倍)



▲ 観光入込み客数の伸び率

資料：H21秋田県観光統計

【 私たちは上記の課題を踏まえた4つの政策目標を設定しました 】

- ① 高次医療機関への速達性確保
- ② リサイクル関連拠点間の連携向上
- ③ 農作物の出荷先への速達性確保
- ④ 観光拠点間の速達性確保

※ 本頁は右頁の図と合わせてご覧ください。

政策目標を効果的・効率的に実現できる 道路整備の方法を検討しています

【 政策目標の達成、地域の目指す将来像実現には、現在の道路の問題改善が必要です 】

○事故が多く発生する箇所(事故率100件/億台キロ以上) が4箇所あります。

【図の ★ 箇所】

○法面崩壊等のおそれのある箇所(防災点検要対策箇所)が2箇所あります。

【図の ▲ 箇所】

○急勾配箇所が3箇所あります。

【図の ▲▽ 箇所】

○冬期速度低下箇所(年平均速度と冬期速度の差が10km/hを超える区間)が4箇所あります。

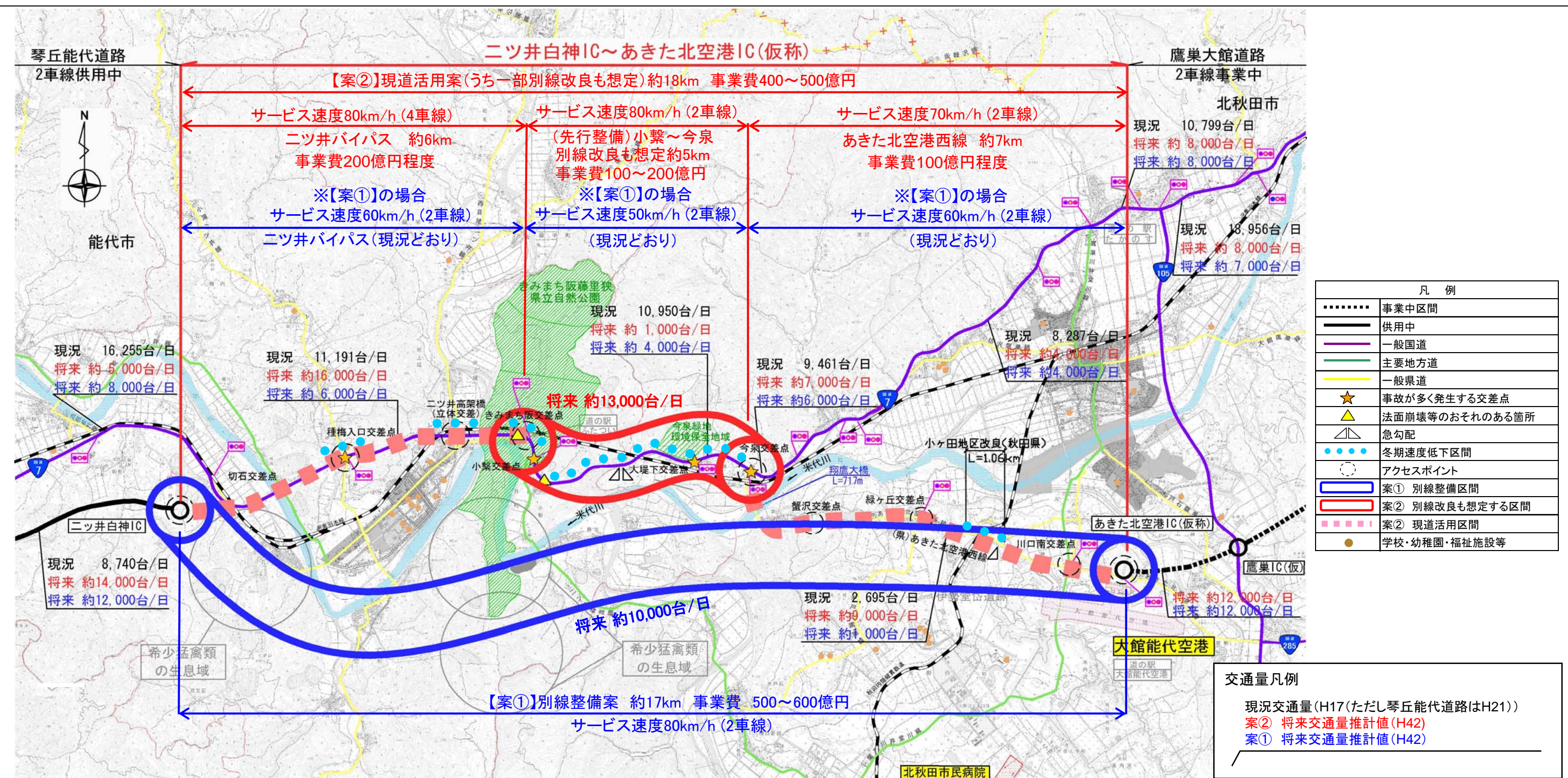
【図の ●● 区間】

※ 道路の状況写真は最終頁参照

【私たちは2つの案を検討しています。2つの案の特徴と政策目標に対する指標は下記のとおりです】

		【案①】別線整備案	【案②】現道活用案 (うち一部別線改良を想定した場合)
概要		ニツ井白神IC～あきた北空港IC(仮称)間を、新しい道路でつなぐ案	比較的走行性の良い現道(ニツ井バイパス、あきた北空港西線)を活用し、小繋～今泉間を別線でつなぐ案
特徴	早期整備効果発現	・建設期間が長く完成整備まで利用不可能	・暫定整備段階で、小繋～今泉間が先行整備され早期に利用可能
	走行性	・走行性は良い(最小曲線半径1,100m、最急縦断勾配3%)	・案①に比べ走行性は劣る(最小曲線半径300m、最急縦断勾配4%)
	利便性	・アクセスポイントが起終点IC2箇所のみで、IC以外では乗入が出来なく利便性は低い	・現道活用であるためアクセスポイントが9箇所あり、沿線の利便性は高い
	現道利用の変化	・現道の利用方法と形態は従来通り	・完成整備段階には、現道活用区間での自動車専用道路化に伴い、自転車・歩行者等の旧道迂回等が必要
	事故対策	・事故が多く発生する箇所を別線整備により回避	・事故が多く発生する箇所を一部別線整備により回避及び交差点立体化により解消
	代替機能	・事故や災害で通行止めの際には、国道7号及び旧国道7号(県道)を通行可能 (ただし、暫定整備段階でニツ井高架橋～きみまち阪交差点間が通行止めの際には、大型車の場合、大幅な迂回が生じる)	・通行止めの際には、国道7号及び旧国道7号(県道)を通行可能 (ただし、暫定整備段階でニツ井高架橋～きみまち阪交差点間が通行止めの際には、大型車の場合、大幅な迂回が生じる)
	環境への影響	・希少猛禽類の生息域や、きみまち阪藤里峡県立自然公園を通過するが、トンネル等を検討し、影響が小さくなるよう配慮 ・学校や福祉施設等の近傍を通過しない	・きみまち阪藤里峡県立自然公園及び今泉緑地環境保全地域を通過するが、トンネル等を検討し、影響が小さくなるよう配慮 ・学校や福祉施設等の近傍を通過しない
	事業費	500～600億円	暫定整備段階:200～300億円 完成整備段階:400～500億円
政策目標に対する指標	医療	【現況】 約4.8万人 (冬期約5.5万人) 【整備後】 約2.5万人 (冬期約3.4万人)	【現況】 約4.8万人 (冬期約5.5万人) 【暫定整備後】 約2.7万人 (冬期約3.5万人) 【完成整備後】 約2.5万人 (冬期約3.4万人)
	リサイクル	【現況】 73分 (冬期79分) 【整備後】 54分 (冬期57分)	【現況】 73分 (冬期79分) 【暫定整備後】 58分 (冬期62分) 【完成整備後】 55分 (冬期59分)
	農業	【現況】 111分 (冬期約118分) 【整備後】 90分 (冬期94分)	【現況】 111分 (冬期118分) 【暫定整備後】 94分 (冬期99分) 【完成整備後】 91分 (冬期96分)
	観光	【現況】 137分 (冬期148分) 【整備後】 94分 (冬期101分)	【現況】 137分 (冬期148分) 【暫定整備後】 87分 (冬期94分) 【完成整備後】 85分 (冬期92分)
	【指標:北秋田市民病院への60分搬送圏域外人口】		

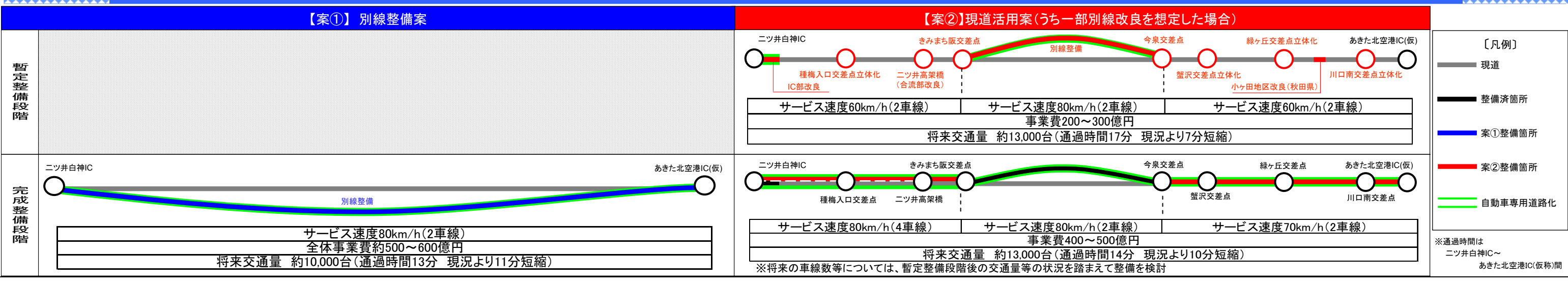
※【整備後】の数値は、現在事業中の他区間の効果を含む



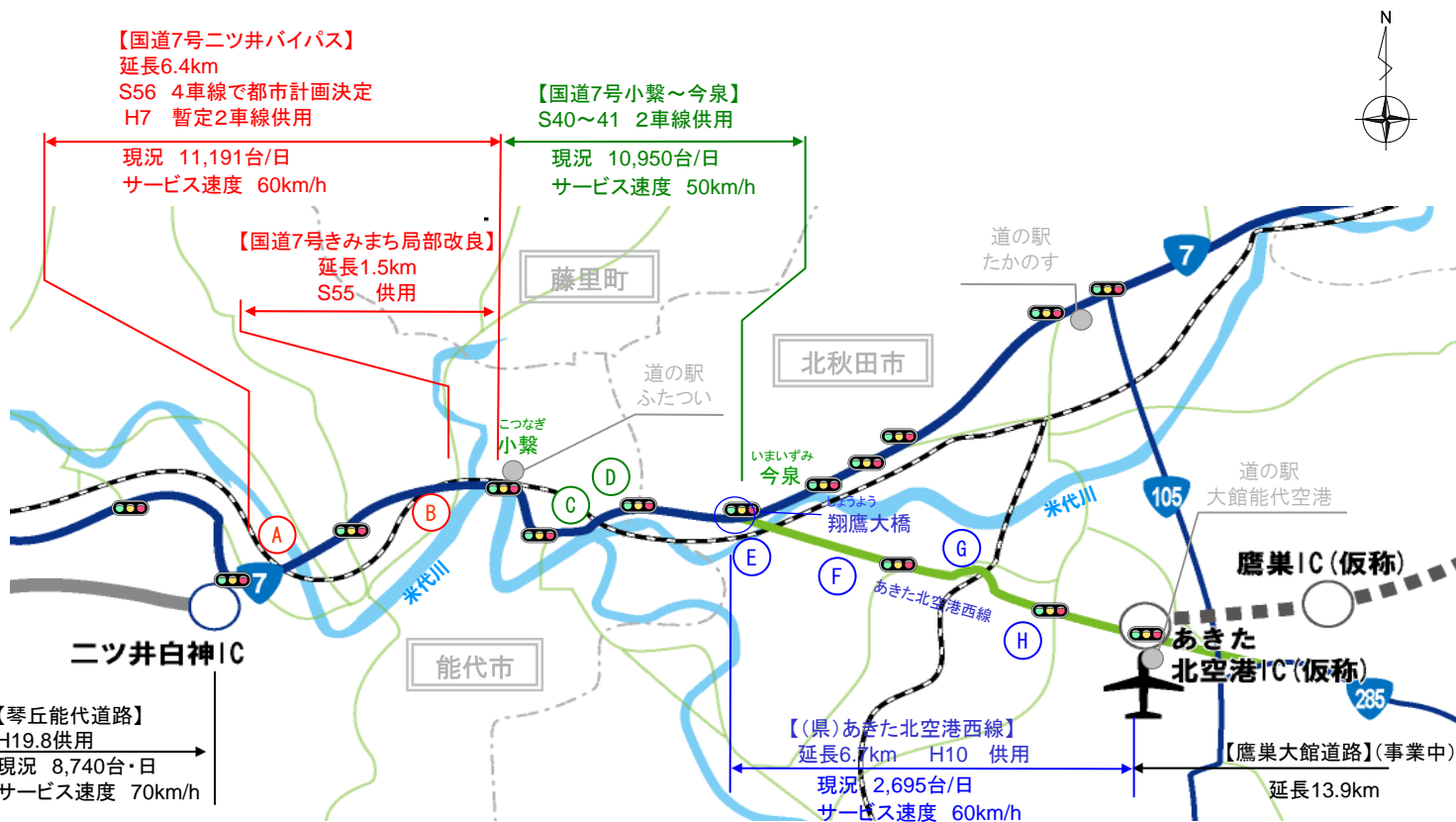
凡例	
.....	事業中区間
——	供用中
——	一般国道
——	主要地方道
——	一般県道
★	事故が多く発生する交差点
▲	法面崩壊等のおそれのある箇所
▲	急勾配
●●●●	冬期速度低下区間
○	アクセスポイント
■	案① 別線整備区間
■	案② 別線改良も想定する区間
■	案② 現道活用区間
●	学校・幼稚園・福祉施設等

交通量凡例	
現況交通量(H17(ただし琴丘能代道路はH21))	案② 将来交通量推計値(H42)
案① 将来交通量推計値(H42)	

【段階整備のイメージと効果と費用】



【 道路状況と現況写真 】



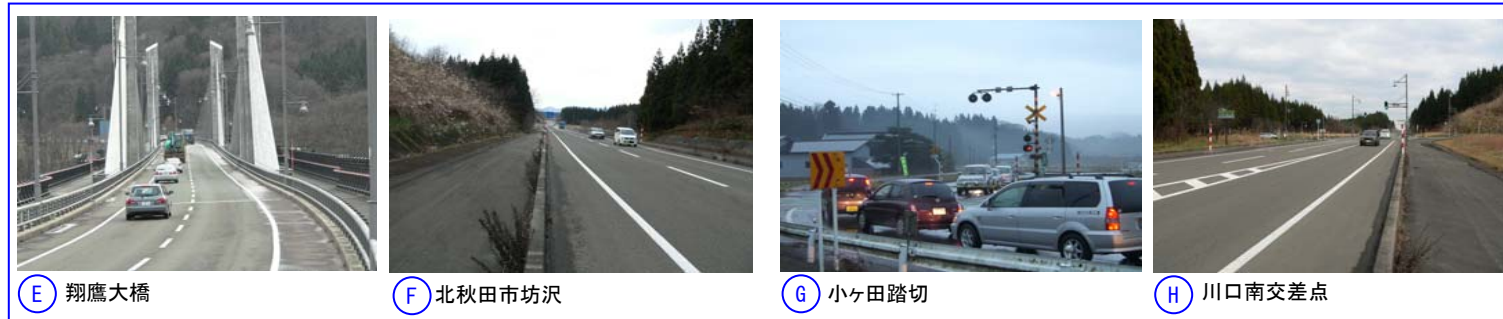
▼国道7号ニツ井バイパス



▼国道7号小繫～今泉地区



▼(県)あきた北空港西線



【 問い合わせ先 】

国土交通省 能代河川国道事務所 調査第二課

(TEL) 0185-70-1194(直通)

日本海沿岸東北自動車道 二ツ井白神IC～あきた北空港IC(仮称)間の 計画検討に関する意見募集アンケート

意見募集のチラシをご覧ください、皆様のご意見をお聞かせください。

アンケートの記入方法

●回答は返信用ハガキにご記入ください。

また、インターネットによる回答も可能となっておりますので、下記アドレスからアクセス願います。
(<http://www.thr.mlit.go.jp/noshiro/〇〇〇〇〇〇>)

質問①

あなた自身についてお聞きします。二ツ井白神ICから”道の駅たかのす”付近の利用頻度についてあてはまる番号を1つ選び、回答欄の□にチェックをお願いします。

1	毎日	4	ほとんど利用しない
2	週に2・3回程度	5	利用したことがない
3	月に2・3回程度		

質問②

二ツ井白神ICから”道の駅たかのす”付近の主な利用目的についてあてはまる番号を全て選び、回答欄の□にチェックをお願いします。(複数回答可)

1	通勤	4	仕事
2	通学	5	観光・レジャー
3	家事・買い物	6	その他

質問③

国道7号の二ツ井白神ICからあきた北空港IC(仮称)間には、どのような交通問題があると思いますか？あてはまる番号を全て選び、回答欄の□にチェックをお願いします。わかる範囲で場所もお答えください。なお、「5. その他」を選んだ方は「その他」の欄に問題と思われることをご記入ください。

1	交通混雑の発生	4	冬季の混雑や事故
2	交通事故の発生	5	その他
3	通行止め時の迂回路が無い		

返信用ハガキの記入例

質問	記入例を参考に記入してください				
①	<input checked="" type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
②	<input type="checkbox"/> 1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input checked="" type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
	<input type="checkbox"/> 6 その他 ()				
③	<input type="checkbox"/> 1	場所 ()		<input type="checkbox"/> 2	場所 ()
	<input type="checkbox"/> 3	場所 ()		<input checked="" type="checkbox"/> 4	場所 (あけぼの町)
	<input type="checkbox"/> 5	その他 ()			
④	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	
	<input type="checkbox"/> 5 その他 ()				
⑤	<input checked="" type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3		
⑥	<input checked="" type="checkbox"/> 1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input checked="" type="checkbox"/> 5
	<input type="checkbox"/> 6	<input type="checkbox"/> 7 その他 ()			
⑦	<input checked="" type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2			
	選んだ理由 (今の道路よりも走りやすく、広い道路にしてほしいから)				
⑧	集落を分断しないでほしい				
⑨					
⑩	道路の幅が広い、安全な道路を作ってほしい				

ご協力ありがとうございました。

※裏面に続きます。

※こちらは裏面(表面からの続き)です。

質問④

4つの政策目標を設定しましたが、どの政策目標が最も重要だと思いますか？重要だと思われる番号を**1つ選び**、回答欄の□にチェックをお願いします。該当が無く、その他の政策目標をお考えの方は「5. その他」を選択し、重要だと思われる政策目標をご記入ください。

1	救急医療機関への速達性確保	4	観光拠点間の連携強化
2	リサイクル関連企業間の連携向上	5	その他
3	農作物の出荷先への速達性確保		

質問⑤


二ツ井白神 IC～あきた北空港 IC（仮称）間に道路の整備は必要だと思いますか？あてはまる番号を**1つ選び**、回答欄の□にチェックをお願いします。

1	必要だと思う	質問⑥へ	↓
2	必要だと思わない	質問⑨へ	→
3	どちらともいえない	質問⑩へ	→

質問⑥ 質問⑤で「1」を選んだ方にお聞きします

必要と考える道路はどのような役割を持つ道路ですか？あてはまる番号を**全て選び**、回答欄の□にチェックをお願いします。なお、「7. その他」を選んだ方は、「その他」の欄に担って欲しい役割をご記入ください。（複数回答可）

1	早く走行できる道路	5	救急病院に早く行ける道路
2	交通混雑が少ない道路	6	観光地や空港をつなぐ道路
3	交通事故が少ない道路	7	その他
4	迂回路を確保する道路		

質問⑦へ 

質問⑦

道路整備の比較案を示しておりますが、どちらの案が良いと思いますか？あてはまる番号を**1つ選び**、回答欄の□にチェックをお願いします。また、**選んだ理由**をご記入ください。

1	案①：別線整備案
2	案②：現道活用案

質問⑧

今後、具体的なルート検討にあたって配慮すべき事項があればお聞かせ下さい。

質問⑨ 質問⑤で「2」を選んだ方にお聞きします

必要だと思わない理由についてお聞かせ下さい。

質問⑩

その他ご意見がありましたらお聞かせ下さい。

※アンケートハガキの回収方法は、ポストもしくは下記に設置してある投函 BOX へ平成23年〇月〇日まで投函をお願いします。

[投函 BOX 設置箇所]

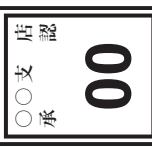
秋田県山本地域振興局 秋田県北秋田地域振興局 秋田県鹿角地域振興局
秋田県北の各市町村役場並び支所 道の駅「ふたつ」「たかのす」「ことおか」「やたて」

ご協力ありがとうございました。

郵便はがき

0160121

料金受取人払郵便



差出有効期間
平成〇年〇月
〇日 まで
切手不要

秋田県能代市臈沢字一本柳 97-1
国土交通省 東北地方整備局
能代河川国道事務所 調査第二課行

郵便番号は未修整

年齢	□10代・□20代・□30代・□40代 □50代・□60代・□70代以上	
職業	会社員・公務員・自営業・学生 主婦・その他 ()	性別 男・女
住所	[] 都・道・府・県 [] 市・町・村 地区名 []	
氏名	差し支えなければご記入ください	

※個人情報と同様なく第三者に開示・提供することはありません。
(法令により開示を求められた場合を除きます。)

質問	記入例を参考に記入してください				
①	□1	□2	□3	□4	□5
②	□1	□2	□3	□4	□5
③	□6	その他 ()			
	□1	場所 ()	□2	場所 ()	
	□3	場所 ()	□4	場所 ()	
④	□5	その他 ()			
	□1	□2	□3	□4	
⑤	□1	□2	□3		
⑥	□1	□2	□3	□4	□5
	□6	□7	その他 ()		
⑦	□1	□2	運んだ理由 ()		
⑧					
⑨					
⑩					

ご協力ありがとうございました

今後の想定スケジュール

平成22年12月16日

東北地方小委員会

平成23年1月18日【今回】

東北地方小委員会

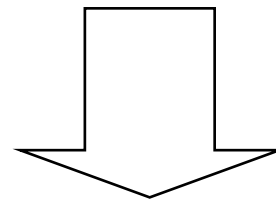
平成23年1月下旬～2月下旬頃

説明会、アンケート等実施

平成23年

東北地方小委員会

説明会、アンケート結果の報告
対策案の評価



対応方針の決定

2-4 走行速度の状況(通常期・冬期)

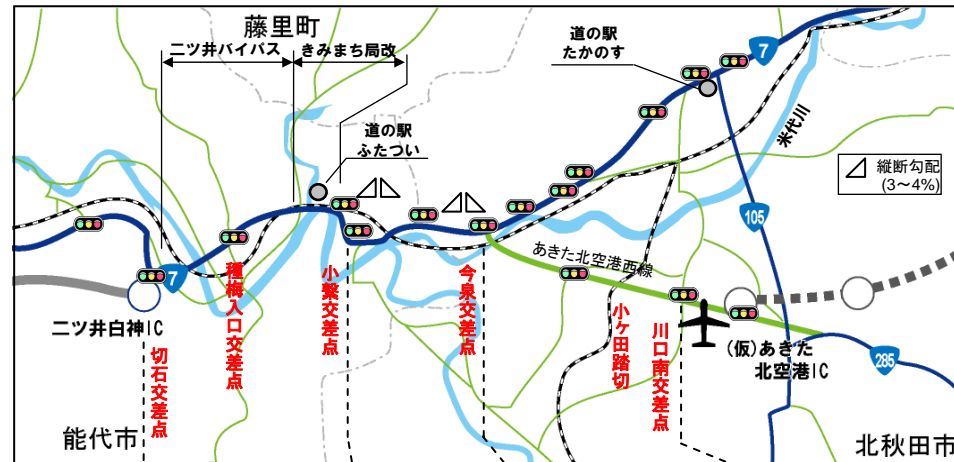
交差点部や急勾配箇所等で速度低下が発生

- ◆国道7号の種梅入口交差点、小繫交差点、小ヶ田踏切で速度が大きく低下
- ◆種梅入口交差点、高架橋合流部、道の駅ふたついで付近、小繫交差点～今泉交差点で冬期の速度低下が顕著

たねうめ
▼種梅入口交差点(国道7号)



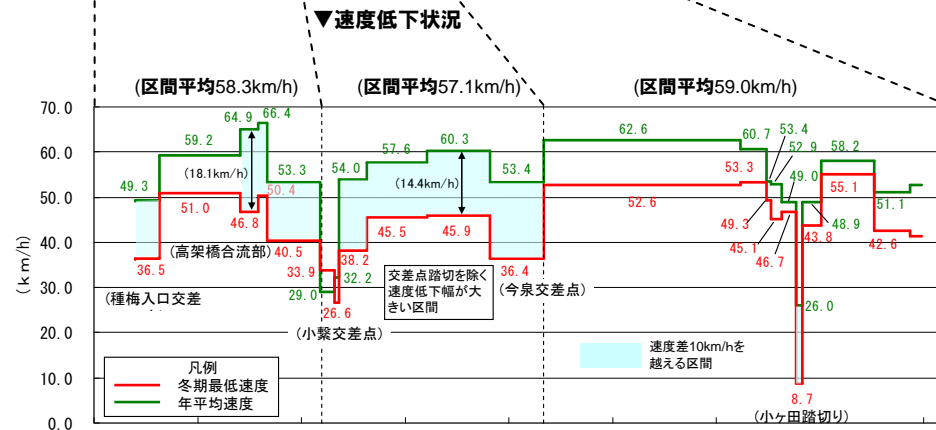
こつなぎ
▼小繫地区(国道7号)



こつなぎ
▼小繫交差点(国道7号)



おがた
▼小ヶ田踏切(あきた北空港西線)



民間プローブデータ(H21.4~H22.3)

1-⑤ 高次医療の状況

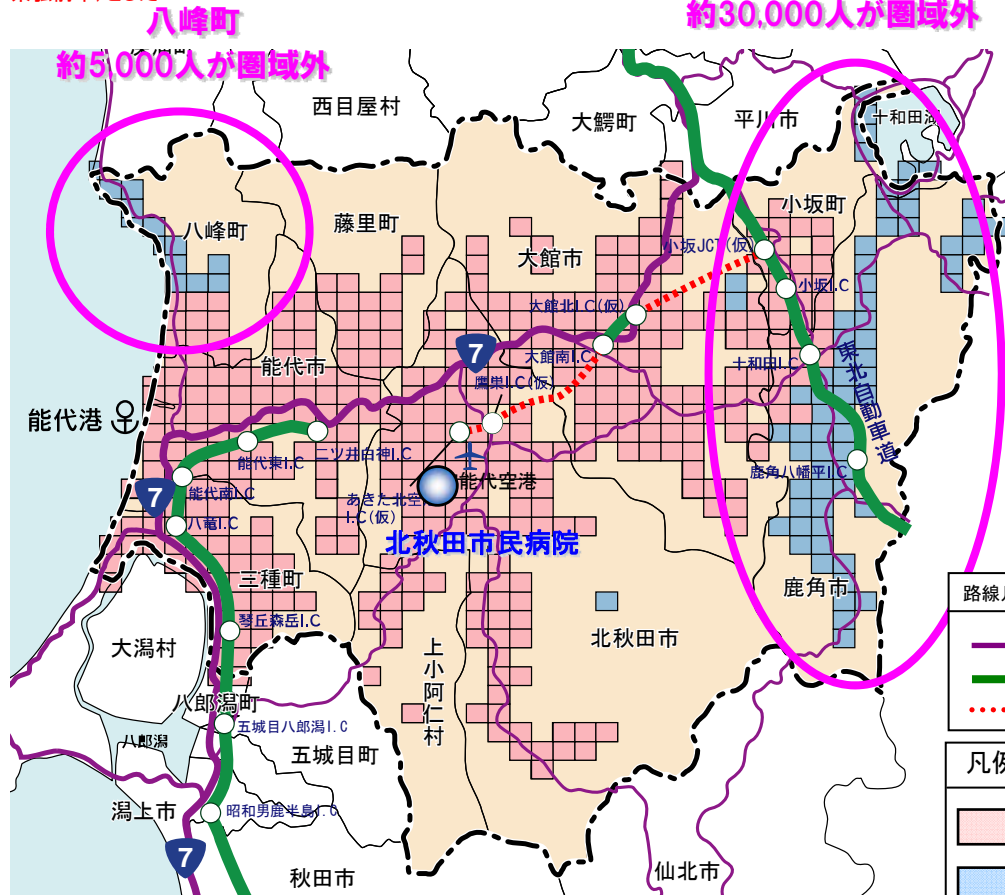
県外・圏域外の高次救急医療施設を考慮した場合

三次医療機能を目指す北秋田市民病院が開院するも、60分搬送圏人口比率は約87%にとどまる

- ◆秋田県北地域の60分搬送圏人口比率が約87% (全国平均97%、秋田県平均92%) で約3.5万人が圏外
- ◆秋田県の心疾患の死亡率は、全国ワースト6位であり、北秋田地区、大館地区、能代地区は全国平均を大きく上回る

▼秋田県北地域から高次救急医療施設への60分搬送圏域

※算出対象医療施設は、北秋田市民病院、三次救急医療施設の秋田赤十字病院、秋田大学医学部付属病院、県立脳血管研究センター、秋田県成人病医療センター(以上秋田市)、弘前大学付属病院(青森県弘前市)とした



大館や鹿角地区では、県外搬送も行われている

▼救急搬送実績(H21)

搬送先	大館市消防本部	鹿角広域行政組合消防本部
大館・鹿角	2,009	1,260
北秋田	3	0
秋田方面	16	7
弘前方面	65	4
盛岡方面	0	51
合計	2,093	1,322

資料:各消防ヒアリング調査



▲北秋田市民病院(H22.4開業)

※「秋田県医療保険福祉計画」(H20.4)の中で、「広域的に必要なとされる三次医療機能について、残る県北地域において北秋田市民病院への整備を進めます」と位置づけられている

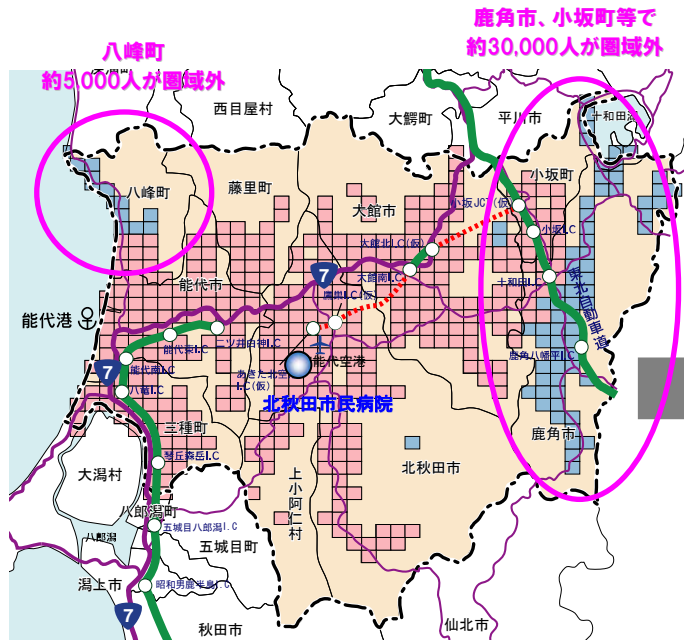
5. 整備方針の検討(対策案の効果例(医療))

県外・圏域外の高次救急医療施設を考慮した場合

対策案により八峰町等で約2,000～4,000人の北秋田市民病院60分搬送圏域外人口を解消

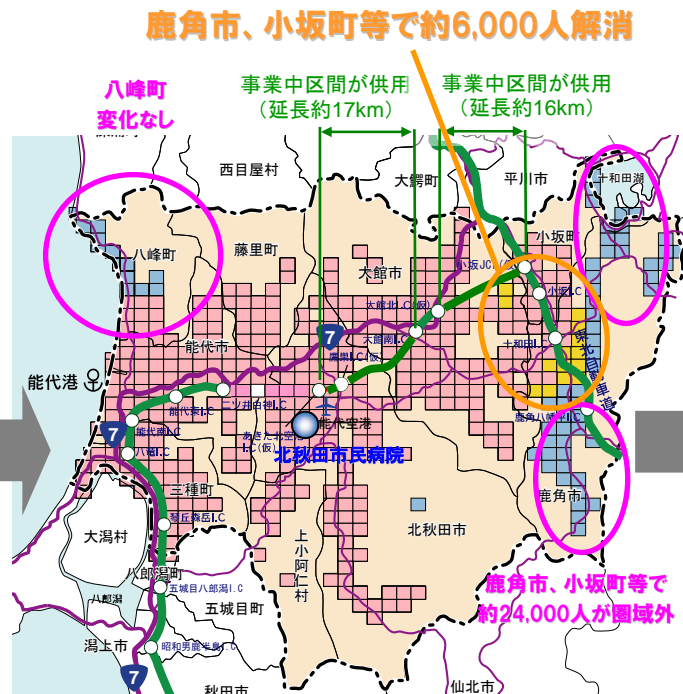
【高次医療施設への速達性確保】

《現況》



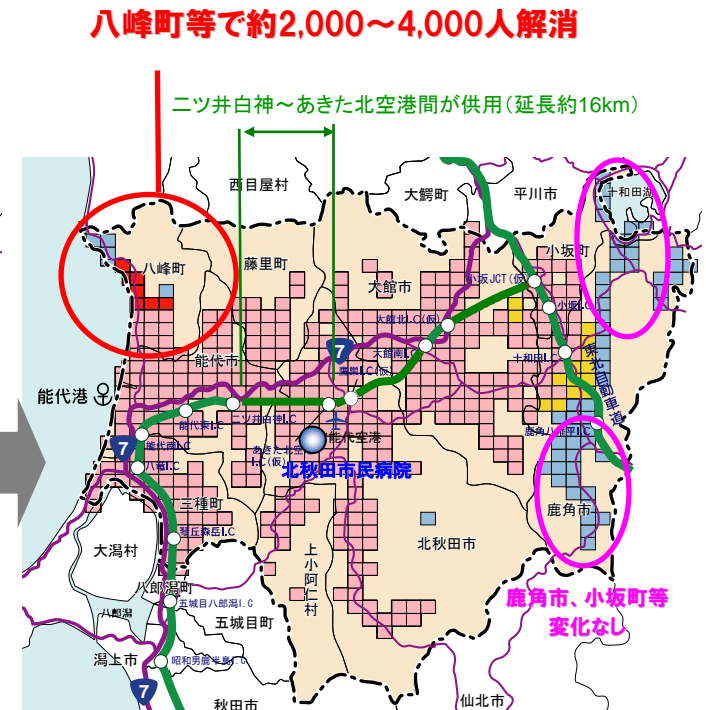
60分圏域外人口約35,000人

《事業中区分間供用後》



60分圏域外人口約29,000人

《日沿道全線開通後》



60分圏域外人口約25,000～27,000人

高次救急医療施設60分搬送圏域の凡例

- 現況
- 上に加え事業中区分間整備後
- 上に加え日沿道全線開通後
- 圏域外

路線凡例

- 直轄国道
- 高規格幹線道路(供用区間)
- 高規格幹線道路(事業中区分間)

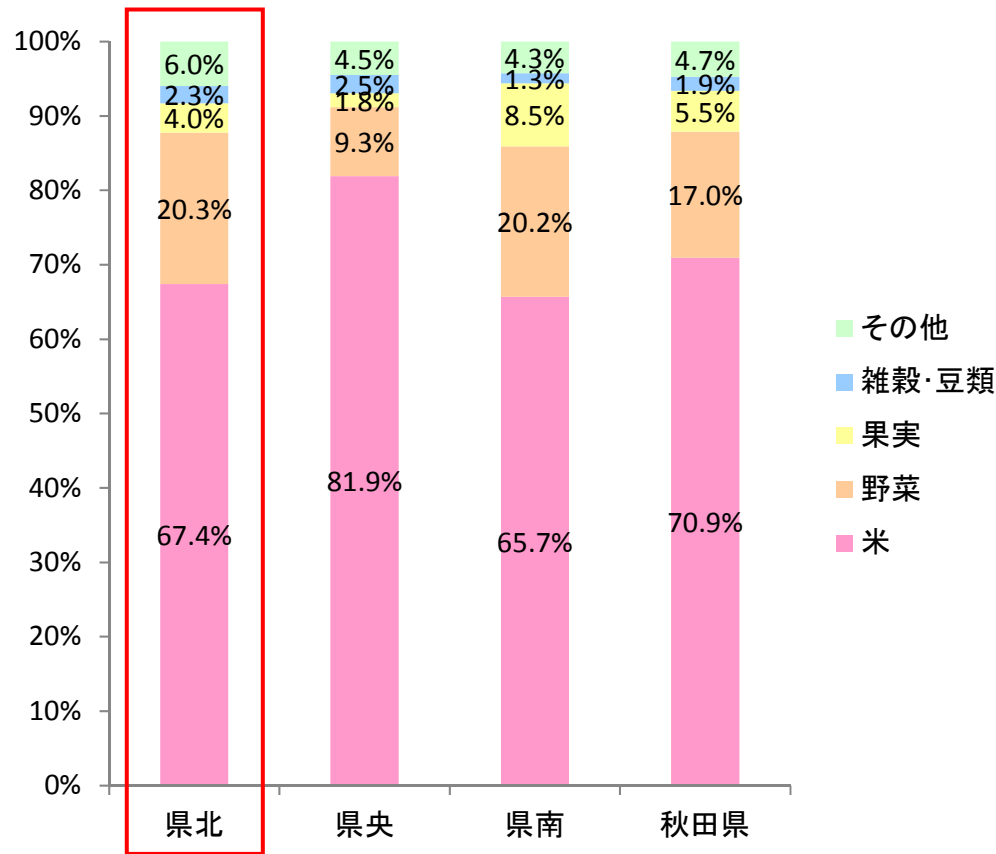
※算出対象医療施設は、北秋田市民病院、三次救急医療施設の秋田赤十字病院、秋田大学医学部付属病院、県立脳血管研究センター、秋田県成人病医療センター(以上秋田市)、弘前大学付属病院(青森県弘前市)とした

1-⑧ 農業の状況【主力農産物と特産品】

農産物の主力は米。その他、全国シェアが高い特産品も産出

◆秋田県の農産物の主力は米であり、県北地域においては7割弱を占め、野菜が2割を占める

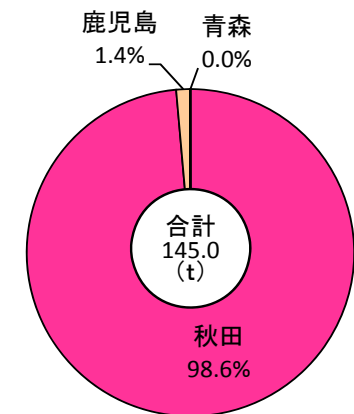
◆特産品としては「とんぶり」や「じゅんさい」等を産出。特に「とんぶり」は秋田県産が全国の99%を占めている



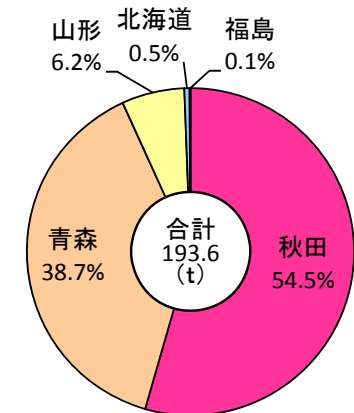
▲秋田県北地域の農業産出額の構成比

資料：平成18年農業産出額(市町村別推計)

「とんぶり」
主産地：
大館市(82%)、大仙市(18%)
※県内におけるシェア



「じゅんさい」
主産地：
三種町(95%)、大仙市(5%)
※県内におけるシェア



▲秋田県北地域のシェアが高い特産品(収穫量ベース)

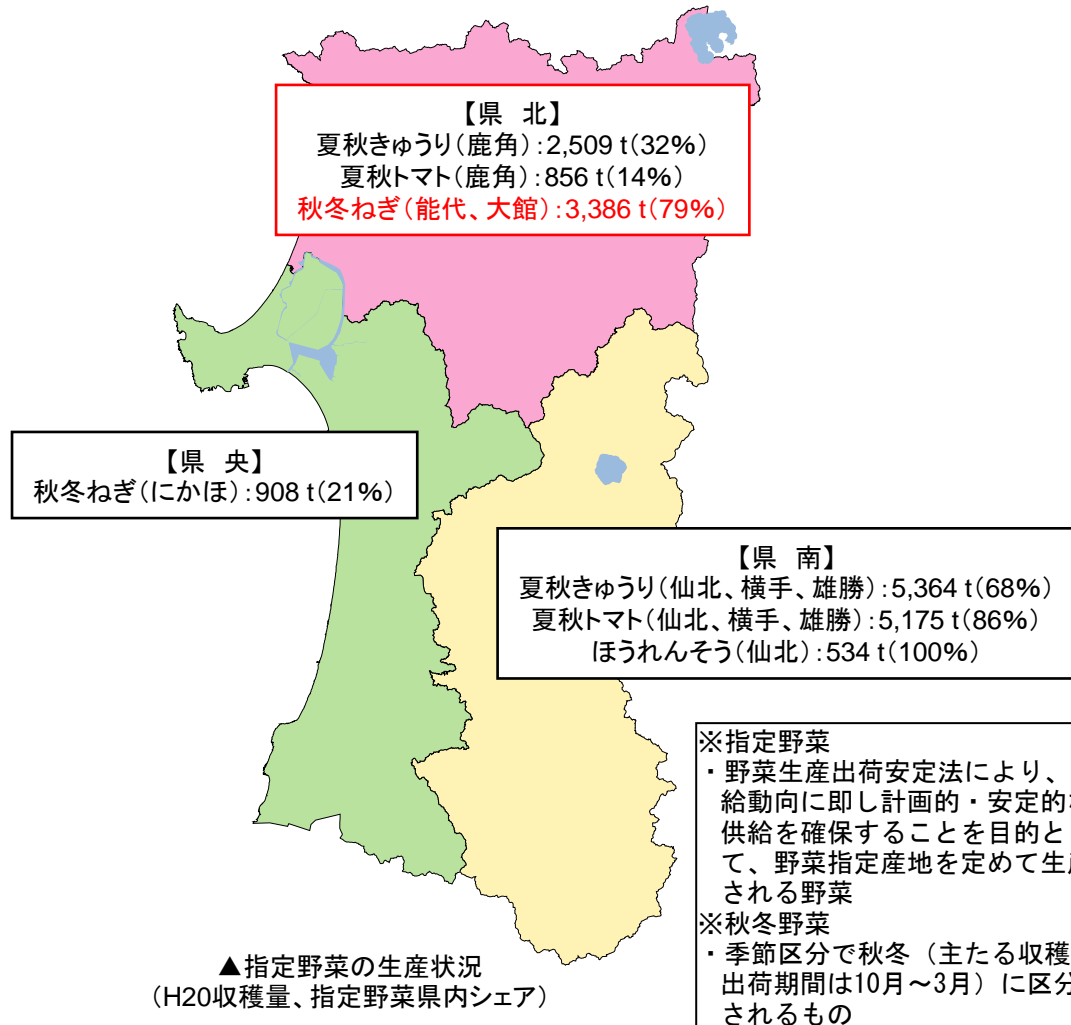
資料：平成20年産地域特産野菜生産状況

1-⑧農業の状況【指定野菜の産出状況】

秋田県北地域の指定野菜は、秋冬ねぎが代表であり県内シェアの8割を占める

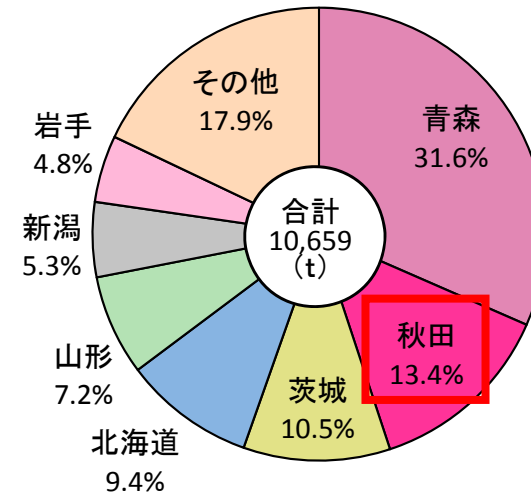
◆秋田県には4種類の指定野菜があり、秋田県北地域では秋冬ねぎが県内シェアの8割を占める

◆特に9～10月の秋田県産の「ねぎ」のシェアは青森県に次いで第二位と高く、首都圏の食卓を支えている



▲指定野菜の生産状況
 (H20収穫量、指定野菜県内シェア)

資料: 作物統計



▲「ねぎ」のシェア(9～10月)(H21東京都中央卸売市場)

資料: 東京都中央卸売市場年報

産地興とれたて情報 特産品紹介

- 山うど
- 白神ねぎ
- 白神キャベツ
- 白神ねぎ
- アスパラガス
- 白神みょうが
- 比内地鶏
- マイタゲ
- HMC

白神ねぎ

作物	白神ねぎ
出荷期間	随年
栽培面積	128ヘクタール
説明	夏ねぎ・秋冬ねぎ、雪中ねぎがあり、県内複数の産地です。大きくて柔らかい味は、漬物に最適です。
販売高	818,458千円【21年3月末】



1-⑧農業の状況【秋田県内の最近の話題から】

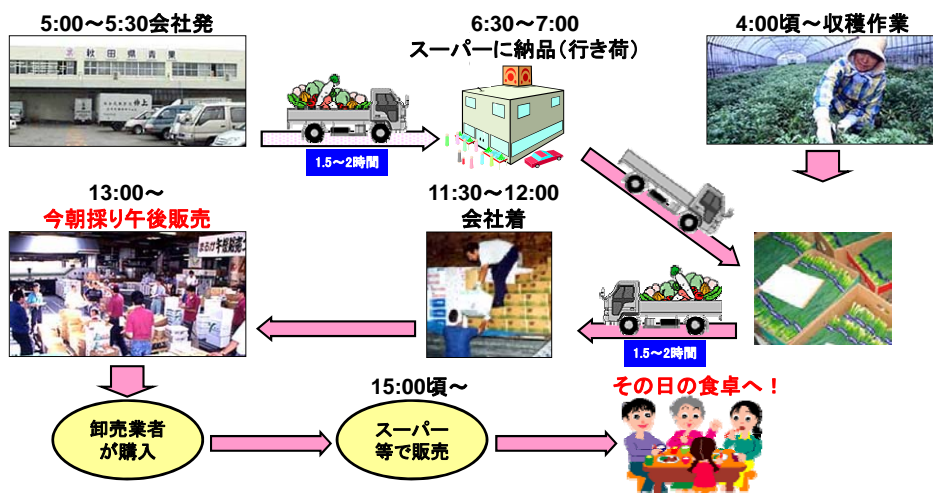
「今朝採り午後販売」が好調であり、秋田県北産の野菜も市場において期待されている

- ◆収穫したその日に販売する「今朝採り午後販売」は、毎年5月下旬から11月までの半年間秋田市内のスーパー等で実施
- ◆現在は県南地域が主となっているが、需要があるため県北からの取扱量や取扱品目が増える可能性

「今朝採り午後販売」のタイムスケジュール

6:30~7:00	スーパーに納品※)
7:00~10:00	農家から集荷(4~5件)
10:00~11:30	産品輸送
11:30~13:00	販売準備(卸売り)
13:00~	販売(卸売り)
15:00頃~	スーパー等で販売

※「今朝採り午後販売」の輸送は、スーパー(行き荷)への帰り荷活用として実施



秋田県北地域の可能性等について

(秋田市内青果卸売販売業者ヒアリング)

- ・「今朝採り午後販売」は、行列ができるスーパーもあり、需要があるので、取扱量や取扱品目を増やしていきたい
- ・秋田県北地域や由利地域は未開拓であるが、藤里のアスパラや枝豆などに興味がある
- ・スーパーへの納品は7時頃までと決まっており、出発時間の都合上、移動時間1.5時間程度の距離までが限界
- ・また、その後12時まで農家集荷後に帰社するためやはり移動時間の限界は1.5時間程度
- ・特に枝豆やとうもろこしなどは、輸送時に発熱するため鮮度を保つためには時間短縮が重要

産地と市場との所要時間の短縮が鍵

秋田市内から1.5時間以内を達成するため
道路整備による支援が必要

5. 整備方針の検討(対策案の効果例(農業))

【中央卸売市場への速達性確保】

(例)秋田中央卸売市場への時間短縮

農業生産地から中央卸売市場(秋田市)への
時間短縮により、市場規模の拡大に期待

